

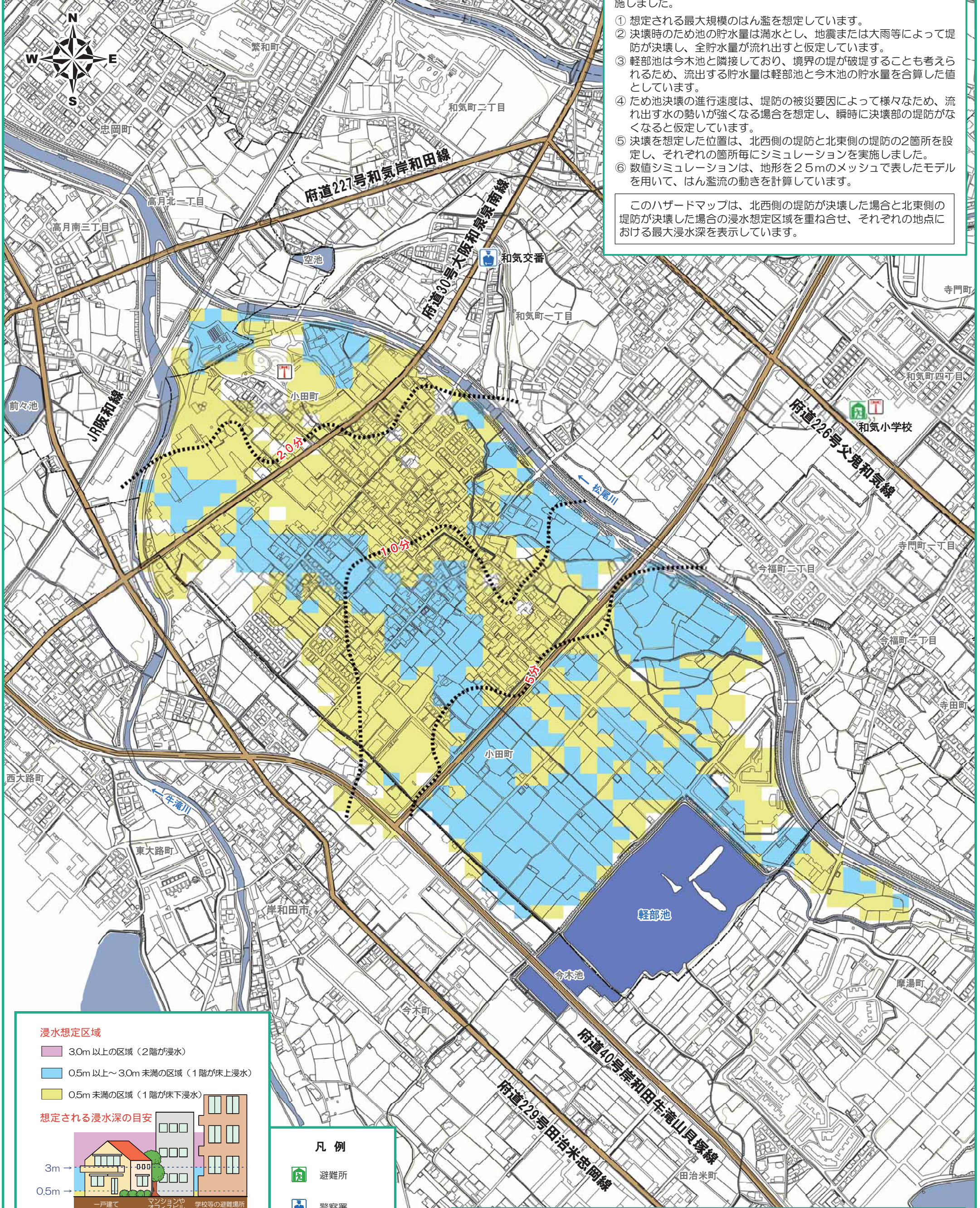
和泉市ため池ハザードマップ（軽部池）

【はん濫シミュレーションの条件】

軽部池は耐震性能を有していることが確認されていますが、万が一への備えとして、以下の条件により「はん濫シミュレーション」を実施しました。

- ① 想定される最大規模のはん濫を想定しています。
- ② 決壊時のため池の貯水量は満水とし、地震または大雨等によって堤防が決壊し、全貯水量が流れ出すと仮定しています。
- ③ 軽部池は今木池と隣接しており、境界の堤が破堤すること考えられるため、流出する貯水量は軽部池と今木池の貯水量を合算した値としています。
- ④ ため池決壊の進行速度は、堤防の被災要因によって様々なため、流れ出す水の勢いが強くなる場合を想定し、瞬時に決壊部の堤防がなくなると仮定しています。
- ⑤ 決壊を想定した位置は、北西側の堤防と北東側の堤防の2箇所を設定し、それぞれの箇所毎にシミュレーションを実施しました。
- ⑥ 数値シミュレーションは、地形を25mのメッシュで表したモデルを用いて、はん濫流の動きを計算しています。

このハザードマップは、北西側の堤防が決壊した場合と北東側の堤防が決壊した場合の浸水想定区域を重ね合せ、それぞれの地点における最大浸水深を表示しています。



浸水想定区域

- 3.0m以上の区域（2階が浸水）
- 0.5m以上～3.0m未満の区域（1階が床上浸水）
- 0.5m未満の区域（1階が床下浸水）

想定される浸水深の目安



はん濫水の到達時間

..... 〇分

凡例

- 避難所
- 警察署
- 無線サイレン

【ハザードマップ活用の留意点】

東日本大震災の津波被害などでは、ハザードマップで示した浸水想定結果のイメージが固定化され、状況に応じた避難判断の阻害になったケースがありました。

浸水想定結果は、ある一つの仮定条件に基づく結果です。また、詳細な地形等を反映できていない場合もあり、浸水想定区域外での浸水や、想定結果以上の浸水深となる可能性もあります。

このため、ハザードマップは多様な災害をイメージする基礎情報であることに留意し、発災時は状況に応じた柔軟な避難行動を心がけてください。